令和３年度授業改善推進プラン　理科

大田区立大森第四中学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・コロナ禍の中であっても可能な限り実験などを行うことができた。

・学習効果測定の結果から多くの部分で目標値や区内平均、全国平均に比べ高いポイントが得られた。

（２）　課題

・実験を考察する場面を更に多く取り入れる必要がある。

・更なる知識の定着を、小テストなどを用いながら図る必要がある。

２　大田区学習効果測定の結果分析

（１）　達成率（経年比較）

	令和２年度結果	令和元年度結果	平成 30 年度結果
第１学年	全国平均に比べて、校内平均正答率がわずかに上まわっている。		
第２学年	目標値に比べ校内平均正答率が高く、区平均や全国平均に比べてもポイントが高い。	全国平均に比べて、校内平均正答率が低かった。（第１学年時）	
第３学年	目標値に比べ校内平均正答率が高く、区平均や全国平均に比べてもポイントが高い。	全国平均に比べて、校内平均正答率がやや低かった。昨年より差は小さくなっている。（第２学年時）	全国平均に比べて、校内平均正答率が低かった。（第１学年時）

（２）　分析（観点別）

①　第１学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率が目標値や区内平均や全国平均よりも高い。	校内平均正答率が区内平均を上まわっているが、全国平均をやや下回っている。	校内平均正答率が目標値や区内平均や全国平均よりも高い。

②　第２学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
校内平均正答率が目標値や区内平均や全国平均よりも高い。	校内平均正答率が目標値や区内平均や全国平均よりも高い。	校内平均正答率が目標値や区内平均や全国平均よりも高い。観点別の中では最も各平均からのポイント差が大きい。	校内平均正答率が目標値や区内平均や全国平均よりも高い。

③　第３学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
校内平均正答率が目標値や区内平均や全国平均よりも高い。	校内平均正答率が目標値や区内平均や全国平均よりも高い。	校内平均正答率が区内平均よりも高いが、目標値やや全国平均とほぼ同じ値である。	校内平均正答率が目標値や区内平均や全国平均よりも高い。４観点の中では最もポイント差が大きい。

３　授業改善のポイント（観点別）

（1）第１学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
繰り返し問題演習などを行うことにより定着を図る。技能は引き続き実験を中心に指導をする。	実験を行う前に実験方法を検討・提案する授業を取り入れていきたい。 検討や提案の方法については指導に時間をかけていく。	学年全体が理科への関心が高く、特に実験へ意欲的に感じる。そのため、与えられた実験をこなす授業から、生徒が考えた方法を少しでも多く取り入れる授業を展開することで、生徒の主体性を養いたい。

（2）第２学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
大田区学習効果測定の結果では、目標値よりもポイントが低かった問題は全て知識に関する問題であった。このことから、繰り返し問題演習などを行うことにより定着を図る。技能は引き続き実験を中心に指導をする。	実験を行う前に実験方法を検討・提案する授業を取り入れていきたい。	学年全体が理科への関心が高く、特に実験へ意欲的に感じる。そのため、与えられた実験をこなす授業から、生徒が考えた方法を少しでも多く取り入れる授業を展開することで、生徒の主体性を養いたい。

（3）第３学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
きちんと現象を理解して定着できるように今後も時間をかけて生徒が考える授業展開をする。また、繰り返し問題演習などを行うことにより定着を図る。技能は引き続き実験を中心に指導をする。	実験を行う前に実験方法を検討・提案する授業を取り入れていきたい。 検討や提案の方法については指導に時間を掛けていく。	学年全体が理科への関心が高く、特に実験へ意欲的に感じる。そのため、与えられた実験をこなす授業から、生徒が考えた方法を少しでも多く取り入れる授業を展開することで、生徒の主体性を養いたい。